

授業科目	コミュニケーションⅡ 〔AT2〕		担当教員	今北 雄太		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	1年次からの応用として、コミュニケーションを通じて、課題克服への積極的挑戦から自信に繋げる。					
到達目標	自主的に話題性をもって、人に関わり、立ち位置を確立できるようになる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）			
	レポート	20				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	60				
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	就職活動に向けて①	履歴書の記入方法			
	2	就職活動に向けて②	自己分析 自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか			
	3	就職活動に向けて③	業界研究 進みたい分野においての調査			
	4	就職活動に向けて④	就職情報サイトの利用方法			
	5	面接試験に向けて①	心構え、様々な面接試験について			
	6	面接試験に向けて②	入退室、面接試験体験①			
	7	面接試験に向けて③	入退室、面接試験体験②			
	8	一般常識①	漢字（読み・書き）			
	9	一般常識②	丁寧語、敬語			
	10	一般常識③	挨拶、接遇			
	11	一般常識④	マナー、一般常識（応用）			
	12	一般常識⑤	ペア対話、グループ対話			
	13	まとめ①	確認テスト（読み・書き・丁寧語・敬語）			
	14	まとめ②	確認テスト（挨拶・接遇）			
	15	まとめ③	確認テスト（マナー・一般常識応用）			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	健康運動実践指導者対策実技〔AT2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	健康運動実践指導者検定合格に向けて、レジスタンス運動・有酸素運動の指導実践ができるようになる。				
到達目標	健康運動実践指導者実技試験を合格するレベルで指導できる。				
テキスト・参考図書等	プリント、DVD				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テストでは模擬試験での評価とする その他は積極的な受講姿勢等で評価する		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	10			
	その他	40			
履修上の留意事項	スタジオ・プールでの指導実践が中心となる。健康運動実践指導者に必要な指導能力を理解し、指導者としての資質向上を目指し取り組んでいきましょう。皆さん自身の指導実演能力が問われる資格です。この授業で100%合格できる自信をつけられるよう学んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	(共通)ガイダンス	(共通)授業の進め方について説明・検定内容の説明、ステップの確認、W-up・C-down		
	2	有酸素運動・レジスタンス運動の基礎学習	DVD視聴および内容の把握・暗記、実演、W-up・C-down		
	3	指導練習①	レジスタンス運動の指導方法		
	4	指導練習②	レジスタンス運動の指導方法		
	5	指導練習③	レジスタンス運動の指導方法		
	6	指導練習④	レジスタンス運動の指導方法		
	7	指導練習⑤	有酸素運動の指導方法		
	8	指導練習⑥	有酸素運動の指導方法		
	9	指導練習⑦	有酸素運動の指導方法		
	10	指導練習⑧	有酸素運動の指導方法		
	11	指導練習⑨	5分間の実践指導練習		
	12	指導練習⑩	5分間の実践指導練習		
	13	指導練習⑪	検定試験と同様の形で実技試験の実施		
	14	模擬試験	検定試験と同様の形で実技試験の実施		
	15	模擬試験	検定合格基準に満たない学生対象の再試験実施		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	JATI 理論対策〔トレ 2〕		担当教員	菊地 健太	
対象年次・学期	AT・MT・PHⅡ、TR・IN・COⅡ+SBⅡ/前期		必修・選択区分	AT・MT・PHⅡ必修、TR・IN・COⅡ必修+SBⅡ選択者/	単位数
授業形態			授業回数	0 回	時間数 30 時間
授業目的	JATI トレーニング指導者資格試験に必要なとなるトレーニング科学、運動生理学、解剖学、栄養学、コンディショニングなどの基礎理論を体系的に学習する。 また、資格試験の出題傾向を踏まえた問題演習を行い、トレーニング指導者として必要な知識を理解するとともに、資格試験合格に必要な知識の定着を図る。				
到達目標	JATI 資格試験の基礎理論を理解できる トレーニングに関わる身体の構造・機能を説明できる 各種トレーニング理論の基本を理解できる 栄養やコンディショニングの基本的な考え方を説明できる JATI 試験レベルの問題を解答できる				
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト〔理論編〕 3 訂版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験				
	レポート				
	小テスト	50			
	提出物				
	その他	50			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス・JATI 資格制度	授業の目的、評価方法の説明 JATI トレーニング指導者資格の概要 資格取得の流れ		
	2	体力トレーニング論	体力の概念 防衛体力・行動体力		
	3	運動と栄養	運動と栄養の基礎理論		
	4	運動と栄養	対象と目的に応じた栄養摂取		
	5	運動と医学	生活習慣病		
	6	運動と医学	生活習慣病復習		
	7	小テスト			
	8	運動と医学	スポーツ外傷		
	9	運動と医学	救命救急法		
	10	運動と心理	運動と心理の基礎理論		
	11	運動と心理	運動学習と指導法		
	12	運動生理学	呼吸循環系・エネルギー代謝と運動		
	13	運動生理学	骨格筋系、神経系、内分泌系と運動		

	14	総復習	
	15	小テスト	

授業科目	JATI 理論対策〔トレ 2〕	担当 教員 実務 経験	菊地健太 有：■ 無： □	JATI トレーニング指導者
対象年次・学期	AT・MT・PHⅡ、TR・IN・COⅡ+SBⅡ/前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	カレッジイベントⅡ〔トレ2〕		担当教員	田中 いぶき		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。					
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布。					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）			
	レポート	20				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	60				
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	カレッジイベント内容①	イベントの内容説明			
	2	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定			
	3	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認			
	4	イベント実施	スポーツ大会			
	5	振り返り	レポート作成、提出			
	6	カレッジイベント内容②	イベントの内容説明			
	7	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定			
	8	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認			
	9	イベント実施	スポーツフェスティバル			
	10	振り返り	レポート作成、提出			
	11	カレッジイベント内容③	イベントの内容説明			
	12	役割分担	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定			
	13	リハーサル	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備			
	14	イベント実施	学園祭			
15	振り返り	レポート作成、提出				

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	JATI 実践対策〔トレ 2〕		担当教員	見田 昌司	
対象年次・学期	2 年・前期		必修・選択区分	必修/選択	単位数
授業形態	座学		授業回数	0 回	時間数
授業目的	トレーニング指導者になる上で必要になってくる知識・技術を習得し、対象者に適切なトレーニングを実施できるようにする。				
到達目標	対象者のニーズを聴取、分析して適切な運動メニューを考案できるようにする。また手本となるトレーニングを見せられるように正確な動作の習得を目指す。				
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト〔実践編〕 3 改訂				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	第 8 回、第 15 回時に小テストを実施して採点、評価。また出席、授業態度も踏まえて総合的に評価していく。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 1 章 トレーニング指導者論 1 節 トレーニング指導者の役割 2 節 トレーニング指導者の実務	トレーニング指導者として身につけるべき資質や考え方、知識についてを大きな枠組みで捉えられるようにする。		
	2	2 章 測定と評価 1 節 トレーニング効果の測定と評価	測定と評価の位置付け、測定の実際を学んでいく		
	3	2 章 測定と評価 2 節 測定データの分析とデータの活用方法	前回の授業で学習した内容をもとに、そのデータの活用の方法の仕方を学んでいく。		
	4	3 章 トレーニング理論とプログラム 1 節 長期的トレーニング計画 2 節 レジスタンストレーニング	長期のトレーニング計画を立てられるようにピリオダイゼーションを中心に学習していく。また対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでいく。		
	5	3 章 トレーニング理論とプログラム 3 節 パワートレーニング 4 節 持久力向上トレーニング	対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでいく。		
	6	3 章 トレーニング理論とプログラム	対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでい		

		5 節 スピードトレーニング 6 節 柔軟性向上トレーニングおよびウォームアップ、クールダウン、リカバリー	く。
	7	3 章 トレーニング理論とプログラム 7 節 特別な対象のためのトレーニングプログラム 8 節 生活習慣病、傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム	対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでいく。
	8	小テスト 出題範囲 1 章から 3 章まで	小テスト 60 分 その後回答、解説
	9	4 章 レジスタンストレーニングの実技 1 節 レジスタンストレーニングの実技と指導法	実際に部位に応じたレジスタンストレーニング学んでいく。
	10	4 章 レジスタンストレーニングの実技 2 節 パワートレーニングの実技と指導法	パワートレーニング時の留意点と実際の動作について学習する。
	11	4 章 レジスタンストレーニングの実技 3 節 持久力向上トレーニングの実技と指導法	持久力向上トレーニング種類と実施時の留意点を学習していく
	12	4 章 レジスタンストレーニングの実技 4 節 スピードトレーニングの実技と指導法	スピードトレーニングの実施の留意点、アジリティの説明
	13	4 章 レジスタンストレーニングの実技 5 節 ウォームアップと柔軟性向上トレーニング、その他のトレーニングの実技と指導法	ウォーミングアップの実際とバランス、ファンクショナルトレーニングの実際について学習。
	14	教科書のまとめ	試験に出そうな問題の確認 小テストの勉強
	15	小テスト 出題範囲 4 章まで	小テスト 60 分 その後回答、解説

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	検定対策Ⅲ〔AT2〕		担当教員	菅原 稜平	
対象年次・学期	2 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	JATI 認定トレーニング指導者合格に向け、知識の習得と試験問題への対応力を身につける。				
到達目標	JATI 認定トレーニング指導者合格に向けた基礎学力の獲得				
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト理論編 3 訂版、実践編 3 訂版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験		授業内での試験（小テスト）を中心に提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート				
	小テスト	80			
	提出物	10			
	その他	10			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、検定試験について	授業内容説明、評価や諸注意、トレーニング指導者協会について		
	2	体力トレーニング総論	体力トレーニング論		
	3	バイオメカニクス	基礎理論		
	4	バイオメカニクス	スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス		
	5	模擬試験	体力トレーニング総論、バイオメカニクス		
	6	運動と医学	生活習慣病		
	7	運動と医学	生活習慣病		
	8	運動と医学	スポーツ傷害		
	9	運動と医学	救命救急法		
	10	模擬試験	運動と医学		
	11	測定と評価	トレーニング効果の測定と評価		
	12	測定と評価	トレーニング効果の測定と評価		
	13	測定と評価	測定データの分析とデータの活用法		
	14	模擬試験	測定と評価		
	15	前期復習	グループワーク		
	16	模擬試験	理論編		
17	模擬試験	実践編			

	18	模擬試験	グループワーク
	19	模擬試験	理論編
	20	模擬試験	実践編
	21	模擬試験	グループワーク
	22	模擬試験	理論編
	23	模擬試験	実践編
	24	模擬試験	グループワーク
	25	模擬試験	理論編
	26	模擬試験	実践編
	27	模擬試験	理論編
	28	模擬試験	模擬試験
	29	模擬試験	理論編
	30	総合復習	総合復習

授業科目	検定対策Ⅲ〔AT2〕	担当 教員 実務 経験	小野寺良太 有：■ 無： □	アスレティックトレーナ ー、鍼灸師
対象年次・学 期	2 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	バイオメカニクス〔AT2〕		担当教員	伊藤 秀吉	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	運動と言うものを科学的観点から理解することを目的とする。				
到達目標	様々な運動を力学的にとらえて論じることが出来る。 様々な運動における効率的な動作を説明できる。 怪我を誘発する動作について説明できる。				
テキスト・参考図書等	授業は基本的に PowerPoint を用いて行う。 参考書：アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト 2 スポーツ科学概論				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	授業内で配布する課題、およびその他（出席状況、受講態度等）を総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
	その他	50			
履修上の留意事項	運動に興味を持って臨んでほしいと思います。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	バイオメカニクスとは	バイオメカニクスとは何なのか、これから何を学ぶのか、何故必要なのかを知ってもらいます		
	2	基礎：重心と床反力	バイオメカニクスを学ぶ上で必要な基礎力学について解説します。		
	3	基礎：関節モーメント	各種運動時、人体の中でどのようなことが起きているのか、力学的に解説します。		
	4	基礎：跳躍動作	跳躍動作に必要な力学について解説します。		
	5	基礎：歩行①	最も基本と言える動作、歩行についてを力学的に解説します。		
	6	基礎：歩行②	良い歩行とは何なのか、場面に分けて解説します。		
	7	応用：走動作	走る動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	8	応用：方向転換動作	方向転換動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	9	応用：跳動作①	跳ぶ動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	10	応用：跳動作②	跳ぶ動作を含む具体的な競技を例に出して、効率的な跳ぶ動作について解説します。		
	11	応用：投動作	投げる動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	12	応用：あたり動作	衝突動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	13	応用：泳動作	泳ぐ動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	14	特殊：障がい者の歩行について	足を切断して義足を履いた人の歩行が、健常者とのように違うのか解説します。		

	15	総復習	AT 国家試験に向けて、過去問を参考に総復習を行います。
--	----	-----	------------------------------

授業科目	バイオメカニクス〔AT2〕	担当 教員 実務 経験	伊藤秀吉 有：■ 無： □	
対象年次・学期	2 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	トレーナー総合実習Ⅲ 〔AT2〕		担当教員	渡辺 舞		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態	実技		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	アスレティックトレーナー業務全般をトレーナー現場にて実践できる。					
到達目標	アスレティックトレーナーとして現場で活動できる（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、検査測定と評価）					
テキスト・参考図書等	全公認 AT テキスト					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準			
	試験		トレーナー実習報告書の提出をもって、活動状況を把握する			
	レポート					
	小テスト					
	提出物					
	その他	100				
履修上の留意事項	特になし					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	2	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	3	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	4	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	5	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	6	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	7	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	8	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	9	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	10	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	11	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	12	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	13	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			
	14	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価			

	15	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リ コンディショニング、救急対応、測定と評価
--	----	---------	--

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	トレーニング科学〔AT2〕		担当教員	天野 雅斗	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	トレーニングを多角的側面から捉え、競技スポーツや一般層との関連を学び、様々な角度から『科学的にトレーニングを理解』する				
到達目標	同上				
テキスト・参考図書等	パワーポイント・板書・都度配布資料をベースに動画や実践事例を交えて授業を展開していく				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		レポート・小テスト・その他(授業の取り組み姿勢)を合わせ、総合的に評価します。		
	レポート	25			
	小テスト	60			
	提出物				
	その他	15			
履修上の留意事項	配布資料の保管等、管理を徹底すること				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・トレーニング業界	学習到達目標、トレーニング業界について		
	2	様々なトレーニング法	各種トレーニング理論について		
	3	トレーニング科学とは・・・	トレーニング科学とは・・・		
	4	運動指導の科学①	動作の成り立ち、神経系の発達		
	5	運動指導の科学②	指導の対象(年齢、性別、技術レベル)		
	6	運動指導の科学③	動作の習得		
	7	運動指導の科学④	トレーニング方法と環境が及ぼす影響		
	8	トレーニング効果の測定と評価①	トレーニング指導における測定と評価の意義と目的		
	9	トレーニング効果の測定と評価②	測定と評価の実際①		
	10	トレーニング効果の測定と評価③	測定と評価の実際②		
	11	測定データの活用	トレーニング指導におけるフィードバック、タブレットやウェアブル端末の活用		
	12	疲労の科学	アイシングや睡眠が及ぼす影響について		
	13	ジュニア期のトレーニング	ジュニア期のトレーニング		
	14	高齢者のトレーニング	高齢者に対するトレーニング		
	15	パワートレーニング	パワートレーニングについて		

授業科目	トレーニング科学〔AT2〕	担当教員 実務経験	天野雅斗 有：■ 無：□	JATI 認定上級トレーニング指導者(JATI-AATI)
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スノーボード・スキー実習Ⅱ〔共通2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					60時間
授業目的	スキー・スノーボードにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。 スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。				
到達目標	冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート・提出物等の状況を総合的に評価する その他は受講姿勢等で評価する		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	10			
	その他	80			
履修上の留意事項	宿泊研修という決まりの中で、自己管理、時間管理を徹底して行う事。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	事前説明会	目的、注意事項伝達		
	2	1日目午後レッスン開始	各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ		
	3	1日目ミーティング	1日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	4	1日目ナイター練習	1日目に学んだことを復習する。		
	5	2日目午前レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	6	2日目午後レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	7	2日目ミーティング	2日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	8	2日目ナイター練習	2日目に学んだことを復習する。		
	9	3日目午前レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	10	3日目午後レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	11	3日目ミーティング	3日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	12	3日目ナイター練習	3日目に学んだことを復習する。		
	13	4日目午前レッスン開始	各班に分かれ、検定へ向けてレッスンをする		
	14	4日目検定	今まで学んだことを踏まえて検定に臨む		
	15	4日目ミーティング	4日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		

授業科目	スノーボード・スキー実習Ⅱ〔共通2〕	担当教員 実務経験	小笠原 鷹介 有：□ 無：■	
対象年次・学期	2年・集中	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツと指導者Ⅱ〔トレ2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	0回	時間数 30時間
授業目的	スポーツ指導を行う際に必要な事項について学習する。スポーツ現場において対象者のそれぞれの特性を把握し、それに基づいた指導やトレーニング方法、スポーツ栄養、医学的知識（けが、障害、疾病）など、幅広い知識の習得に努める。				
到達目標	指導する立場として、あらゆる対象者に、基本的な知識・技能をほかの分野と関係づけて説明できる。				
テキスト・参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内で行う小テスト及び課題等の提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	60			
	提出物	10			
	その他	30			
履修上の留意事項	1. 講義形式により行う（パワーポイント、プリント、板書） 2. 随時課題や小テストにより理解を深める、あらゆる分野の指導者となる意識を高め、それに伴う確かな知識と技術を習得できるよう努める姿勢を保っていて下さい。知識の財産を蓄え、人間性を養って下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	<ガイダンス> スポーツトレーニングサイクル／スポーツパフォーマンス構造論／ トレーニング目標論		
	2	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	トレーニング手段・方法論／トレーニング計画論 ／試合行動論		
	3	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	トレーニングアセスメント／トレーニングと休養の バランス／ トレーニング環境の整備と効果的遂行の条件		
	4	体力のトレーニング	身体のしくみと動き		
	5	体力のトレーニング	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給		
	6	体力のトレーニング	体力を構成する要素の体系／体力トレーニングの 原理・原則／ トレーニングの種類		
	7	前半振り返り	前半振り返り/中間テスト		
	8	スキルトレーニング	スキルトレーニング		
	9	スポーツバイオメカニクス	運動する物体の性質、力学的エネルギー、力積等		
	10	スポーツバイオメカニクス	弾性エネルギー、摩擦力、流体力学等		
	11	スポーツに関する医学的知識	スポーツと健康／アスリートの健康管理／アスリートの 内科的障害と対策 女性アスリートの障害と対策／スポーツによる精		

			神障害と対策
	12	スポーツに関する医学的知識	外傷・障害の予防／コンディショニングの手法 救急処置（救急蘇生法）／救急処置（外科的応急処置）
	13	スポーツと栄養	5 大栄養素の役割と特徴／アスリートの栄養摂取の考え方／ サプリメント摂取の注意点
	14	スポーツと栄養	基本の食事／水分補給／栄養・食事計画の立案
	15	まとめ	授業内容の振り返り/まとめテスト

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	検定対策Ⅳ〔AT2〕	担当教員	田中 いぶき		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態	座学	授業回数	0回	時間数	30時間
授業目的	AT 試験合格のために必要な知識を学ぶ				
到達目標	AT 試験に合格する				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0			
	レポート	0			
	小テスト	40			
	提出物	30			
	その他	30			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	2	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	3	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	4	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	5	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	6	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	7	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	8	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	9	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	10	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	11	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	12	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	13	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	14	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	15	AT 模試	AT 模試（小テスト）		

授業科目	検定対策Ⅳ〔AT2〕	担当 教員	田中 いぶき	
		実務 経験	有：□ 無： ■	
対象年次・学期	2 年・後期	担当 教員	渡辺 舞	アスレティックトレーナー、鍼灸師
授業形態	座学	実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	就職セミナー〔トレ2〕	担当教員	今北 雄太		
対象年次・学期	各学科就職学年前年・集中	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	就職への意識づけ、意欲向上を目的とする。				
到達目標	各種セミナーに積極的に参加することで、社会人に必要な知識・能力について理解を深めることができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	セミナー担当者に、各プログラムに対する取り組み状況について、相対的な判断にて評価してもらう。(セミナー担当者と当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。)「レポート(感想、アンケート含む)」の提出をもって、取り組み状況を把握する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	セミナー参加に対する各自の目標設定等が大変重要となります。就職活動がより充実したものとなるように、積極的にコミュニケーションを図りながら、目標達成を目指してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	就職セミナーの目的説明、挨拶練習、その他		
	2	セミナー①	就職活動と社会人		
	3	セミナー①	就職活動と社会人		
	4	セミナー②	シンポジウム(就職活動開始から内定まで、各種試験、その他)		
	5	セミナー②	シンポジウム(就職活動開始から内定まで、各種試験、その他)		
	6	セミナー②	シンポジウム(就職活動開始から内定まで、各種試験、その他)		
	7	セミナー③	就活・スーツ・見出しなみについて		
	8	セミナー③	就活・スーツ・見出しなみについて		
	9	セミナー④	就活本番に向けて		
	10	セミナー④	就活本番に向けて		
	11	セミナー⑤	本当に必要な人材とは		
	12	セミナー⑤	本当に必要な人材とは		
	13	セミナー⑥	就活に向けての大切な第一歩！		
	14	セミナー⑥	就活に向けての大切な第一歩！		
	15	まとめ	レポート作成、就職に関する意識調査、各種アンケート等		

授業科目	就職セミナー〔トレ2〕	担当教員	齋藤敬男	
		実務経験	有：□ 無：■	
対象年次・学期	各学科就職学年前年・集中	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツと社会〔トレ2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会のなかでスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに発展してきたかを理解する。さらに、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。				
到達目標	わが国のスポーツが社会の中にどのように構築されているか、スポーツ組織の運営と事業展開について学び、多種多様なニーズを持つ人々に対応するために必要な実践的な考え方を身につけることを目標とする。				
テキスト・参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	出席や、毎時間のレポートを提出すること。そのレポート内容と最終確認テストを実施し、総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	10			
履修上の留意事項	提出物・出席数・テスト等、毎回の授業が評価になっていることを理解しながら授業に取り組んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツの意義と価値	<ガイダンス> なぜ、コーチは「スポーツの意義と価値」を考えなければならないのか／ 社会の中におけるスポーツの価値		
	2	スポーツの意義と価値	文化としてのスポーツ／スポーツの文化的特性		
	3	スポーツの意義と価値	「スポーツ宣言日本」におけるスポーツの意義と価値／ オリンピズムにおけるスポーツの意義と価値の捉え方		
	4	スポーツの価値を守る スポーツ権	スポーツの定義／基本的人権としてのスポーツ／ スポーツの価値／ スポーツ権の内容		
	5	スポーツの自治～ガバナンスとコンプライアンス～	スポーツの自治／グッド・ガバナンスの確立／コンプライアンスとは		
	6	暴力・ハラスメントの根絶	暴力／ハラスメント		
	7	暴力・ハラスメントの根絶	暴力・ハラスメントの根絶のために		
	8	スポーツのインテグリティ	スポーツにおけるインテグリティの確保／アンチ・ドーピング活動／アンチ・ドーピングのルール／ドーピング防止活動推進法／ドーピング違反事例		
	9	アンチ・ドーピング	アンチ・ドーピングとは／アンチ・ドーピングの歴史／ 世界アンチ・ドーピング機構および日本アンチ・ドーピング機構について等		

			レポート課題①
	10	アンチ・ドーピング	ドーピングコントロールの全体像とドーピング検査／結果管理／制裁、上訴／禁止薬物と治療使用特例（TUE）／スポーツ指導者の役割
	11	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ組織の持続可能性／「目的」のマネジメント／「補完」のマネジメント
	12	スポーツ組織のマネジメント	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」／ スポーツ少年団の活動分野と内容／日本スポーツ少年団と総合型クラブとの連携・協働
	13	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ指導者に求められるマネジメント／スポーツ組織の特性
	14	障がい者とスポーツ	障がい者・障がいの理解／障がい者のスポーツの現状と課題
	15	障がい者とスポーツ	障がい者のスポーツ指導者の育成／ （公財）日本障がい者スポーツ協会のビジョン レポート課題②

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツ外傷・障害の基礎Ⅱ〔AT2〕		担当教員	伊藤 雄人	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的な知識について理解する。そのために、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障害の病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得することをねらいとする。				
到達目標	各スポーツ外傷・障害についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手の検査について理解・習得することができるようになる。整形外科的メディカルチェックの方法を説明出来る。				
テキスト・参考図書等	公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト2 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	受講姿勢、受講態度等を評価基準とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	特になし。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	下肢のスポーツ外傷・障害 1	A C L 損傷		
	2	下肢のスポーツ外傷・障害 2	P C L 損傷		
	3	下肢のスポーツ外傷・障害 3	M C L 損傷、L C L 損傷		
	4	下肢のスポーツ外傷・障害 4	大腿部打撲、膝蓋靱帯炎		
	5	下肢のスポーツ外傷・障害 5	アキレス腱断裂		
	6	下肢のスポーツ外傷・障害 6	足関節内反捻挫、扁平足障害		
	7	上肢のスポーツ外傷・障害 1	肩関節脱臼（コンタクト）		
	8	上肢のスポーツ外傷・障害 2	肩鎖関節脱臼		
	9	上肢のスポーツ外傷・障害 3	肩インピンジメント症候群		
	10	上肢のスポーツ外傷・障害 4	肘M C L 損傷		
	11	上肢のスポーツ外傷・障害 5	突き指、T F C C 損傷		
	12	体幹のスポーツ外傷・障害 1	腰椎椎間板ヘルニア		
	13	体幹のスポーツ外傷・障害 2	腰椎分離症		
14	体幹のスポーツ外傷・	筋膜性腰痛			

		障害 3	
	15	体幹のスポーツ外傷・ 障害 4	頸椎捻挫、頸椎椎間板ヘルニア

授業科目	スポーツ外傷・障害の基礎 Ⅱ〔AT2〕	担当 教員 実務 経験	伊藤雄人 有：■ 無： □	整形外科医
対象年次・学 期	2 年・集中	担当 教員	塩崎彰 有：■ 無： □	整形外科医
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験	金子知 有：■ 無： □	整形外科医
		担当 教員 実務 経験	高橋輝一 有：■ 無： □	整形外科医
		担当 教員 実務 経験	松橋智弥 有：■ 無： □	整形外科医
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	就職実務〔トレ 2〕	担当教員	藤田 真		
対象年次・学期	3 年／2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	1. 就職活動の流れを理解し、早期内定を得るよう円滑な就職活動へと繋げる。 2. 就職決定に向け自分自身を理解すること、客観的視野で自己分析を行うことへと繋げる。				
到達目標	就職内定を目標とした社会人基礎力を身に付け、様々な考え方を学び、社会人としての行動、判断、表現をすることができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料・プリント配布などを行う				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	レポートおよび提出課題（履歴書作成）、その他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	0			
	提出物	30			
	その他	40			
履修上の留意事項	パワーポイントや配布資料を中心として授業を実施をします。メモをとる習慣をこの授業内でも身に付けましょう。 毎回、数名の学生に時事問題についての発表を行ってまいります。全員が発表対象となりますので、しっかりと準備しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	就職の現状、就活スケジュール、受験報告書の作成・提出 求人票の見方、求職票の書き方、履歴書台本作り【パソコン持参】		
	2	就活準備（1）	履歴書の書き方（練習用紙への記入、下書き作成、筆記用具・定規必須）		
	3	就活準備（2）【課題授業】	履歴書完成【期日までに 2 枚提出】		
	4	就活対策（1）	志望動機の作成について（自己 PR 作成、長所・短所）【パソコン持参】		
	5	就活対策（2）	道スポドリルの活用（適性検査）【WEB 提出、パソコン持参】 企業へのアポイントの取り方		
	6	選考試験対策（1）	選考試験の種類と対策 面接試験対策（基本動作・身だしなみ・事前準備）		
	7	選考試験対策（2）	面接試験対策（成功例と失敗例、質問内容） 面接試験対策（グループディスカッション、集団面接）		
	8	企業説明会の参加と企業研究	企業説明会とは（参加準備・企業研究）		
	9	学内企業説明会【レポート提出】	学内企業説明会参加、企業研究レポートの作成		
10	選考試験対策（3）	内定礼状の作成 筆記試験対策（時事問題・一般常識テスト・小論文・レポート）			

	11	選考試験対策（４） 【課題授業】	筆記試験対策課題（一般常識テスト・小論文・レポート提出）
	12	就職に向けて（１）	社会人基礎力とは（身に付けるべき必要なこと） プレゼンテーション力を身につける
	13	就職に向けて（２）	グループディスカッション
	14	就職に向けて（３）	就職法規の基礎知識について 未決定者の今後の取り組み
	15	就職に向けて（４）	就職への心構え（内定後の学校生活、未決定者の今後の取り組み）

授業科目	就職実務〔トレ2〕	担当教員 実務経験	齋藤敬男 有：□ 無：■	
対象年次・学期	3年／2年・前期	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	二年次研究課題Ⅰ〔トレ2〕		担当教員	教員 未登録		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。					
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。			
	レポート	60				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	20				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	評価の目的、意義および役割	現場で必要な評価			
	2	姿勢・アライメント・筋委縮	姿勢の評価基準・指標、スポーツ活動と姿勢			
	3	姿勢・アライメント・筋委縮	筋委縮の観察、計測の目的と意義			
	4	関節弛緩性	関節弛緩性検査の目的、意義および検査方法			
	5	体力測定	体力測定（概論）、一般青年、成人を対象			
	6	体力測定	少年を対象、中・高齢者を対象			
	7	筋タイトネス	筋柔軟性・筋タイトネスとその検査測定の意義			
	8	全身持久力と敏捷性	全身持久力の目的と意義および手技と測定指標			
	9	全身持久力と敏捷性	敏捷性・協調性の目的と意義および具体的手法			
	10	関節可動域	関節可動域測定の目的、意義および検査方法、留意点			
	11	徒手筋力検査	徒手筋力検査の目的と意義			
	12	徒手筋力検査	判定基準、検査上の留意点、検査手順			
	13	身体組成	目的と意義、および具体的手法			
	14	筋力および筋パワー	目的と意義および検査測定方法			
	15	筋力および筋パワー	機器による筋力評価			
	16	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ①			

	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ②
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ①
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ②
	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	トレーナー総合実習Ⅳ 〔AT2〕		担当教員	渡辺 舞	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	実技		授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	アスレティックトレーナー業務全般をトレーナー現場にて実践できる				
到達目標	アスレティックトレーナーとして現場で活動できる（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、検査測定と評価）				
テキスト・参考図書等	全公認 AT テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験		トレーナー実習報告書の提出をもって、活動状況を把握する		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	100			
履修上の留意事項	特になし				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	2	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	3	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	4	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	5	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	6	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	7	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	8	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	9	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	10	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	11	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	12	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	13	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	14	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		

	15	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リ コンディショニング、救急対応、測定と評価）
--	----	---------	---

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	スポーツ医学 内科 〔AT2〕		担当教員	佐々木 晴樹	
対象年次・学期	2 年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	スポーツ医学（内科的疾患）について、その病態と対応策を理解し、実践できることを目的とする。				
到達目標	スポーツ活動で起きうる内科的疾患の説明が出来る。				
テキスト・参考図書等	公認 A T テキスト④				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	受講姿勢、受講態度等を評価基準とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	特になし。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	アスリートにみられる内科疾患 1	突然死、熱中症、オーバートレーニング、過換気症候群、気管支喘息		
	2	アスリートにみられる内科疾患 2	摂食障害、貧血、血液疾患、腎・尿路系疾患、消化器系疾患		
	3	アスリートにみられる内科疾患 3	虚血性心疾患、弁膜症、心筋症、心不全、不整脈		
	4	アスリートにみられる内科疾患 4	腎不全、生活習慣病		
	5	アスリートの体調管理	メディカルチェック方法		
	6	ドーピング問題、女性とスポーツ	ドーピングの危険性、女性特有のスポーツ障害		
	7	救急処置法	心肺蘇生法		
	8	確認テスト	確認テストの実施		
	9	アスリートにみられる内科疾患 1	消化器系、血液疾患		
	10	アスリートにみられる内科疾患 2	呼吸器系		
	11	アスリートにみられる内科疾患 3	感染症（ウイルス感染）		
	12	アスリートにみられる内科疾患 4	腎泌尿器系、内分泌		
	13	ドーピングコントロール	ドーピングの種類、基準について		
	14	高齢者、子どもの運動	高齢者、子どもの運動指導時に注意すべきこと。		
	15	特殊環境下での疾患、救急処置	高地、寒冷、高温（多湿）環境下での運動について		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	身体の解剖と機能Ⅱ 〔AT2〕		担当教員	橋場 晋也	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	本授業は、1年次に学習した解剖学的知識を基盤とし、AT理論試験に対応できる応用力の習得を目的とする。解剖学的知識を統合し、文章として理解・説明できる力を養う。				
到達目標	① 関節・筋・神経の知識を統合的に理解できる ② 教本レベルの文章を正確に読み取り、内容を説明できる ③ スポーツ動作と解剖学的知識を関連付けて説明できる ④ AT理論試験形式の問題に対応できる				
テキスト・参考図書等	・身体運動の機能解剖 ・AT教本テキスト2：運動器の解剖と機能 ・入門運動生理学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	本授業では、小テスト（50%）、提出物（30%）、その他（20%）により評価する。 小テストでは、AT理論試験を見据え、文章理解・用語理解・統合的な知識の活用を評価する。 提出物は振り返りシートとし、知識の整理および説明力を評価する。 その他は出席および授業内活動とし、ミニテスト提出をもって出席とする。 関節・筋・神経・動作を統合的に理解し、説明できることを重視する。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	30			
	その他	20			
履修上の留意事項	AT理論試験では、単純な暗記ではなく文章理解と知識の統合が求められる。 授業では教本の文章レベルでの理解を目指すため、毎回の復習と小テストへの取り組みが重要である。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	（学習達成目標、成績評価、諸注意）		
	2	関節の構造・関節の種類・軟骨の種類	関節の基本構造，形状による分類の理解，軟骨の種類		
	3	運動器の解剖・評価・姿勢とアライメント	静的・動的アライメントの理解，動きの基本面と軸		
	4	肩関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	5	肩関節の構造②	〃		
	6	肩関節の構造③	〃		
	7	肘関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	8	肘関節の構造②	〃		
	9	肘関節の構造③	〃		
	10	手関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	11	手関節の構造②	〃		
	12	手関節の構造③	〃		
	13	骨盤・股関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	14	骨盤・股関節の構造②	〃		
	15	骨盤・股関節の構造③	〃		

	16	膝関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	17	膝関節の構造②	//
	18	膝関節の構造③	//
	19	下腿の解剖①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	20	下腿の解剖②	//
	21	下腿の解剖③	//
	22	足関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	23	足関節の構造②	//
	24	足関節の構造③	//
	25	頚椎の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	26	頚椎の構造②	//
	27	胸椎と胸郭の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	28	胸椎と胸郭の構造②	//
	29	腰椎の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	30	腰椎の構造②	//

授業科目	身体の解剖と機能Ⅱ 〔AT2〕	担当 教員 実務 経験	橋場晋也 有：■ 無： □	日本スポーツ協会公認アス レティックトレーナー、鍼 灸師
対象年次・学 期	2 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	健康プログラムⅠ〔トレ2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	専門知識を学び、実践者に対し適切なプログラムや指導を行うにあたり、様々な側面に配慮できるようになる。				
到達目標	スポーツプログラマーとしての資質向上を目指し、現場指導において実践者に満足していただけるプログラムを提供できるようになる。				
テキスト・参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内での小テストやレポート、その他出席状況や授業態度等を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	30			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項	講義形式、視聴覚機器の活用、そして資料を中心に授業を進めていきます。基礎知識＋応用（現場経験）＝専門（プロ）となります。人に何かを伝える、上達させる、改善することを授業を通じて、順応できることを目指しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容、成績評価基準、諸注意等の説明		
	2	Ⅰ運動と健康	運動と健康		
	3	Ⅰ運動と健康	スポーツプログラマーの役割		
	4	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング①		
	5	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング② 着地衝撃とその緩和法		
	6	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング③ 投動作と打動作の共通点、運動と流体力		
	7	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	マシーントレーニング		
	8	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	ヘルス・エクササイズ		
	9	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	フィットネス・エクササイズと体調① 1) 体調チェックの意義と方法		
	10	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	フィットネス・エクササイズと体調② 2) スポーツと疲労回復(栄養と休養)		
	11	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン①		
	12	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン②		
	13	運動生理学	運動と血液・体液 成長期における体力・基本的動作のスキル発達		
	14	運動生理学 まとめ①	成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下 体力に及ぼす先天的・後天的効果 学習内容の復習		

	15	まとめ②	学習内容の復習
--	----	------	---------

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	リコンディショニングⅡ 〔AT2〕		担当教員	小林 大介	
対象年次・学期	2 年・前期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
					30 時間
授業目的	1 年生で学習したリコンディショニングの概念、基礎知識、各部位における基本事項を踏まえ、各競技ごとの特性、スポーツ動作に応じた適応力、考え方を学習する。				
到達目標	各スポーツ動作、今日における機能的・体力的問題に対して、課題を解消するためのリコンディショニングプログラム、計画を考案するためのスキルを身に付ける。				
テキスト・参考図書等	公認 AT テキスト④リコンディショニング 目的に応じて、その他の公認 AT テキストから引用する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60	期末試験結果をもとに、受講姿勢、出席率、小テスト、レポートなどの内容を踏まえ、総合的に評価する。		
	レポート	10			
	小テスト	10			
	提出物	10			
	その他	10			
履修上の留意事項	より専門的に、より実践的な話が続いていきます。経験したことがない競技でも、機能解剖学、運動学、トレーニングの知識を活用し、ただ覚えるのではなくイメージでできること、考えられることなどの応用力が求められる内容です。少しずつでもいいので、理解を深めていきましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	走動作の基礎知識・観察・分析	走動作位相から動作分析について		
	2	走動作のリコンディショニング	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	3	跳動作の基礎知識・動作・分析・リコンディショニング	跳躍動作の特徴、各競技における起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	4	方向転換の基礎知識・動作・分析・リコンディショニング	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	5	投球動作の基礎知識・動作・分析	各位相での機能的問題について		
	6	投球動作のリコンディショニング	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	7	打撃動作の基礎知識・動作・分析・リコンディショニング	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	8	泳動作の基礎知識・動作・分析	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	9	あたり動作の基礎知識・動作・分析	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	10	滑走動作の基礎知識・動作・分析	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	11	各学習内容の復習と実践	理解度に応じて実技を含め行う		
	12	各学習内容の復習と実践	理解度に応じて実技を含め行う		

	13	各学習内容の復習と実践	理解度に応じて実技を含め行う
	14	各学習内容の復習と実践	理解度に応じて実技を含め行う
	15	各学習内容の復習と実践	理解度に応じて実技を含め行う

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	ボランティア活動Ⅱ〔共通2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	ボランティア活動を通じて、直接的に実践力を身につける。				
到達目標	ボランティア活動先における実務遂行を通じてボランティア精神や各種能力・技術力の向上を図る。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	ボランティア活動先の担当者に、実務遂行状況について、相対的な判断にて評価してもらう。(ボランティア活動先の担当者とは当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。) 「ボランティア活動報告書」の提出をもって、活動状況を把握する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	学外での活動であり、ボランティア活動先において学習するため、各自の目標設定やスケジュール管理が大変重要となります。活動期間が有意義なものとなるように、コミュニケーションをしっかりと取りながら、目標達成を目指してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	2	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	3	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	4	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	5	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	6	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	7	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	8	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	9	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	10	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	11	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	12	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	13	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	14	ボランティア活動先に	ボランティア活動内容について、実務を通じて学		

		おける実務遂行	習する
	15	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	二年次研究課題Ⅲ〔トレ2〕		担当教員	教員 未登録		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。					
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。			
	レポート	60				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	20				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	コンディショニングの概念	コンディショニングの概念とその要素			
	2	トレーニングの基礎	超回復、ATP 産生について			
	3	トレーニングの基礎	筋線維タイプ、筋収縮様式について			
	4	トレーニングの原則	7 原則の確認			
	5	ピリオダイゼーション	GAS 理論、期分けの分類			
	6	トレーニングカテゴリー	トレーニングの分類			
	7	レジスタンス Tr・プライオメトリクス	具体的種目の確認、その目的と効果			
	8	パワーエクササイズ	具体的種目の確認、その目的と効果			
	9	アジリティーTr	具体的種目の確認、その目的と効果			
	10	エンデュランストレーニング	具体的種目の確認、その目的と効果			
	11	コーディネーショントレーニング	具体的種目の確認、その目的と効果			
	12	サーキットトレーニング	具体的種目の確認とその目的と効果			
	13	フィットネスチェック	筋力、筋持久力、筋パワーの測定方法、全身持久力、アジリティーの各種測定方法			
	14	クーリングダウン	クーリングダウンの方法と実際			
	15	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの方法と実際			
	16	運動療法の基礎知識と	全身持久力とアスリハ①			

		用語	
	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ②
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ①
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ②
	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

授業科目	二年次研究課題Ⅲ〔トレ 2〕	担当 教員 実務 経験	齋藤敬男 有：■ 無： □	スポーツ指導者
対象年次・学 期	2 年・集中	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	テーピングテクニックⅡ 〔AT2〕		担当教員	渡辺 舞		
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	0回	時間数	30時間
授業目的	基本的な機能解剖学およびスポーツ外傷学の知識をベースとした各部位におけるテーピング技術を学ぶ。					
到達目標	トレーナー、スポーツ指導者として、正確で、素早い、機能的なテーピングを行うことができる。					
テキスト・参考図書等	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥「予防とコンディショニング」 身体運動の機能解剖 改訂版					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	40	実技試験の結果およびその他（受講姿勢、受講態度等） を総合的に評価する。			
	レポート	0				
	小テスト	30				
	提出物	0				
	その他	30				
履修上の 留意事項	デモンストレーション後、各人に実技練習をしてもらいます。テーピング部位に関する解剖学、運動学、外傷学の知識習得も同時に行う。①実技試験は授業にて実施、②テーピングを行う部位により、Tシャツ、ハーフパンツ着用の指示あり、トレーナー、スポーツ指導者にとってテーピングテクニックは、絶対に身につけなければならない手技の一つです。何度も反復練習し自身のバリエーションを増やしましょう。皆さんの積極的な取組を期待しています。					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	ガイダンス／テーピング総論	講義の説明、その他／テーピング実施時の注意事項			
	2	足関節 基本のテーピング復習	足関節内返し捻挫のテーピング			
	3	足関節 底屈制限・背屈制限	底屈、背屈制限のテーピング			
	4	肘	肘 MCL 損傷に対するテーピング			
	5	足関節	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱部滑液包炎			
	6	前期 中間確認テスト	足関節捻挫、肘、足関節底屈背屈制限			
	7	膝関節	ACL、MCL 靱帯損傷			
	8	膝関節	ACL、MCL 靱帯損傷			
	9	膝関節	ACL、MCL 靱帯損傷			
	10	大腿部、下腿部	打撲・肉ばなれ			
	11	肩関節	肩関節反復性前方脱臼、肩鎖関節捻挫			
	12	肩関節	肩関節反復性前方脱臼、肩鎖関節捻挫			
	13	総復習	足関節、足関節底屈背屈制限、肘 MCL、膝 ACL、MCL、肩			
	14	期末試験	足関節、足関節底屈背屈制限、肘 MCL、膝 ACL、MCL、肩			

	15	期末試験	足関節、足関節底屈背屈制限、肘 MCL、膝 ACL、MCL、肩
--	----	------	---------------------------------

授業科目	テーピングテクニックⅡ 〔AT2〕	担当 教員	山岸 舞	
		実務 経験	有： ☒ 無： ☐	
対象年次・学 期	2 年・通年	担当 教員	田中いぶき	
授業形態		実務 経験	有： ☒ 無： ☐	
		担当 教員	土岐政義	
		実務 経験	有： ☒ 無： ☐	
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	ビジネススキル〔トレ 2〕		担当教員	高野 文子	
対象年次・学期	2 年・後期 1 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	スポーツトレーナー・インストラクター・コーチ・イベンターが人と関わる上で必須となる「調和力」「対話力」「礼節力」「対面力」「人間力」を教授する。また、本過程を通して、就活に必要な「自己分析力」「自信」「良い印象」「志望動機」「説得力」を育む。				
到達目標	人間関係のつくり方／コミュニケーションの仕方／傾聴力の高め方／説得力のつくり方／人から信頼される力／自己分析の仕方／自信のつけ方／人と仲良くする力／人と助け合う力／心の調え方／人の導き方／夢をかなえるプロセス／仲間のつくり方、などを習得する。				
テキスト・参考図書等	毎回、資料等を配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	各レポートは、①授業を正しく理解できているか、②課題の意図を理解し適確に回答しているか、③授業内容にそった回答をしているか、④文面に熱意が感じられるか、⑤自分の経験に基づき、自分の意見（A I は採点除外）を述べているか、⑥論理展開に飛躍や矛盾はないか、という観点で評価する。		
	レポート	100			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	配布資料に基づき、パワーポイントで説明を行う。授業スタイルは講義型、問答型、探求型、演習型を適宜選択する。授業では、テーマを楽しく体得できるように、独自のゲーム、ロールプレイング、演習を数多く実施する。なお、評価は毎回のレポートで行う（レポート提出必須）。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	人間関係が楽になる方法	人間関係が辛くなる原因／心はどうやってつくられるのか／思い込みとは何か／意識・無意識の領域／価値観の上書き		
	2	なりたい自分になる方法	脳の機能を知る／思いつきとひらめき／マイナスの思い込み／思い込みを変える方法		
	3	コミュニケーションの仕方	コミュニケーションの目的／コミュニケーションのスイッチ／コミュニケーションの成果／初対面コミュニケーション／調話の仕方		
	4	傾聴力の高め方	相手が話したくなる聴き方／傾聴の留意点（聴話）／相手の感情を聴く／相手の価値観を聴く／相手の幸せを聴く		
	5	思いの伝え方	プレゼンテーションの目的／相手の心に響くプレゼンテーション／共感とは何か／感動とは何か／共感と感動のつくり方／説得力の正体		
	6	人から信頼される力 1	良い印象／印象とは何か／印象はブーケのようなもの／相手に与えたい印象／笑顔／第一印象／初頭効果を意識したあいさつ		
	7	人から信頼される力 2	礼節とは何か／なぜ礼節が必要なのか／わきまえる／謙虚と感謝の心／あいさつの源流／あいさつの仕方／本来のあいさつ／あいさつは何のためにするのか／ワンランク上のあいさつ		
	8	人から信頼される力 3	身だしなみ／立ち方、姿勢、態度、座り方、歩き方、お辞儀、受け渡し、入退室／言葉づかい／言い回し		
	9	自分を知る力 1	あなたはどのような人ですか／人から見た自分／自		

			分を知る五つの意義／性格とは何だろう／二つの魅力／プラス受信で変換
	10	自分を知る力 2	自分の棚卸しをしよう／自分知シートの作り方と見方／自分らしい選択（道しるべ）／魅力を発揮する／自分にエールを贈ろう
	11	調和力 1 心の連鎖	人はなぜ仲良くするのか／和とは何か／調和をもたらす心のあり方／日本代表と折り鶴／有り難いと思う心チェック
	12	調和力 2 利他の循環	調和を妨げるもの／和と礼の関係／利他とは何か／三つの利他／バランスとオールハピネス
	13	調和力 3 調和の実践	美点・欠点と利他の関係／どちらを伸ばす／美点・欠点かるた大会／聴和の姿勢／調和の実践
	14	心の調え方	全ては移り変わる／まあるい心に調える／自分の心を調える／比べる相手／自信のつけ方／相手を導く方法／事例研究
	15	意志の高め方	やる気／意思と意志／具体的な目標／応援し合う仲間／仲間のつくり方／あなたらしい夢をもとう／随所に主となる

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツコンディショニングⅡ〔AT2〕		担当教員	土岐 政義		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	対象者の特徴が、コンディショニングに及ぼす影響を理解し、それらの情報を安全で効果的なコンディショニング計画立案と実践に活用できる					
到達目標	・対象者の特徴を理解し、安全で効果的なコンディショニング計画の立案と実践に活用できる					
テキスト・参考図書等	公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト3 コンディショニング 公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト3 コンディショニング					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験		試験、その他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	提出物	50				
	その他	50				
履修上の留意事項	板書と実技が中心です。皆さんにどんどん質問していきます。まちがってもよいので、どんどん発言してください。1年生でやってきた事をベースとして基礎的な知識はもちろんだが、人前で話をする事などの能力がとても重要になる。またどんな事にも疑問を持つ姿勢も持ってほしい。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	女性アスリートの特徴	LEA、無月経			
	2	成長期の特性1	発育・発達			
	3	成長期の特性2	運動能力の発達			
	4	高齢者の特性1	コンディショニングの重要性、トレーニング方法			
	5	高齢者の特性2	コンディショニングの重要性、トレーニング方法			
	6	障がい者へのコンディショニング1	コンディショニング概要、重度障害のある選手へのコンディショニング			
	7	障がい者へのコンディショニング2	エクササイズ実践			
	8	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察① ラグビー			
	9	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察② 野球			
	10	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察③ サッカー			
	11	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察④ フットサル			
	12	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察④ 陸上			
	13	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察⑤ バスケット			
	14	まとめ,確認テスト	振り返り・確認テスト			
	15	まとめ,確認テスト	振り返り・確認テスト			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	トレーニングⅠ〔AT2〕		担当教員	伊藤 秀吉	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数
					60 時間
授業目的	トレーナーとして安全で効果的なエクササイズテクニック習得、クライアントに合わせた適切な指導ができる。また、現場を重視し、計画的な指導や機材を使用した分析能力向上と的確なフィードバックができることを目標とする。				
到達目標					
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト理論編 改訂版 トレーニング指導者テキスト実践編 改訂版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験		授業内で実施する実技試験&提出物(トレーニング動画資料等)その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物	50%			
	その他	50%			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス・体力測定	年間授業計画/評価方法/自己紹介		
	2	ウォーミングアップ	アクティブストレッチ		
	3	自重トレーニング①	体幹・股関節トレーニング①		
	4	自重トレーニング②	体幹・股関節トレーニング②		
	5	自重トレーニング③	下半身トレーニング		
	6	自重トレーニング④	上半身トレーニング		
	7	トレーニング動画発表会準備①	グループワーク①		
	8	トレーニング動画発表会準備②	グループワーク②		
	9	トレーニング動画発表会	発表本番①		
	10	トレーニング動画発表会	発表本番②		
	11	実技試験準備①	メニュー作成①		
	12	実技試験準備②	メニュー作成②		
	13	実技試験準備②	指導シミュレーション		
	14	実技試験①	グループ毎の集団トレーニング指導		
	15	実技試験②	グループ毎の集団トレーニング指導		
	16	様々なツールを利用したトレーニング①	ヒップバンド		

	17	様々なツールを利用したトレーニング②	チューブ
	18	様々なツールを利用したトレーニング③	バランスボール、BOSU
	19	様々なツールを利用したトレーニング④	スライドディスク
	20	競技動作トレーニング①	コーディネーショントレーニング①
	21	競技動作トレーニング②	コーディネーショントレーニング②
	22	競技動作トレーニング③	アジリティトレーニング
	23	競技動作トレーニング④	プライオメトリクストレーニング
	24	競技動作トレーニング⑤	バランストレーニング
	25	実技試験準備①	メニュー作成
	26	実技試験準備②	メニュー作成
	27	実技試験準備③	生徒同士での指導シミュレーションとフィードバック
	28	実技試験準備④	生徒同士での指導シミュレーションとフィードバック
	29	実技試験①	実際のアスリートに対するトレーニング指導
	30	実技試験②	実際のアスリートに対するトレーニング指導

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	健康運動理論Ⅰ〔AT2〕	担当教員	喜多 奎介		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	全9章分の基礎知識を身に付け、健康運動実践指導者理論試験合格レベルを目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%			
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	30			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・第1章 健康運動づくり施策概論	授業内容説明、諸注意、1)健康と健康増進の概念～ 5)介護予防について		
	2	第2章 運動生理学	1)運動の発現～ 7)運動の持続と呼吸循環系		
	3	第2章 運動生理学	8)呼吸循環系の機能の指標と調節機構～ 15)体力に及ぼす先天的要因(遺伝)と後天的要因(運動実践の効果)		
	4	第3章 機能解剖とバイオメカニクス	1)骨格筋系の機能解剖学～ 4)水中運動と陸上運動の比較		
	5	第4章 栄養摂取と運動	1)健康と栄養～ 8)生活習慣と栄養・食生活		
	6	第5章 運動指導の心理学的基礎	1)運動実践にかかわる社会・心理・環境的要因～ 6)個別指導における動機付けとカウンセリング		
	7	第6章 体力測定と評価	1)体力とは～ 7)体力測定結果の分析・評価・活用法		
	8	第7章 健康づくりと運動プログラム	1)健康づくりのための運動・トレーニングの原理・原則～ 6)レジスタンス運動		
	9	第8章 健康づくり運動の実際	健康運動実践指導者とは～ B)ウォーキングとジョギング		
	10	第8章 健康づくり運動の実際	C)エアロビックスダンス～ E)レジスタンス運動(1)(2)		
	11	第9章 運動障害と予防・救急処置	1)運動前の内科的メディカルチェックについて～ 7)テーピングの技術		
	12	総復習①	1章～3章の復習・補足		
	13	総復習②	4章～7章の復習・補足		

	14	総復習③	8 章～9 章の復習・補足
	15	定期試験対策・まとめ	定期試験範囲の復習

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	健康運動実践指導者対策理論〔AT2〕		担当教員	喜多 奎介	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	健康運動実践指導者理論試験合格を目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	40			
	提出物	30			
	その他	30			
履修上の留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動実践指導者」に必要とされる知識・技術について学習します。他の教科と共通する部分を確認し、日々の学習の中で関連させながら理解を深め健康運動実践指導者合格に向けて学習していきましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	練習問題・解きなおし①	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	2	練習問題・解きなおし②	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	3	練習問題・解きなおし③	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	4	練習問題・解きなおし④	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	5	模試①	試験本番を想定した模試の実施		
	6	練習問題・解きなおし⑤	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	7	練習問題・解きなおし⑥	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	8	練習問題・解きなおし⑦	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	9	練習問題・解きなおし⑧	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	10	模試②	試験本番を想定した模試の実施		
	11	練習問題・解きなおし⑨	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	12	練習問題・解きなおし⑩	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	13	練習問題・解きなおし⑪	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	14	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		

		⑫	
	15	模試③	試験本番を想定した模試の実施

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	JATI トレーニング指導者 対策〔AT3・MT3・AT2・ MT2・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	菊地 健太		
対象年次・学 期	3 年／2 年・集中		必修・選択区 分	必修 (PHⅢ・ TRⅡ)・選択	単位数	
授業形態			授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導の専門家として活動する為の知識を学ぶ。					
到達目標	対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要とされる知識を習得し、JATI トレーニング指導者の資格試験に合格する。					
テキスト・ 参考図書等	トレーニング指導者テキスト理論編／トレーニング指導者テキスト実践編／その他配 布プリント等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	0	その他(受講姿勢等)を総合的に評価する。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	0				
	その他	100				
履修上の 留意事項	各章に対しての出題					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 1	トレーニング指導者論／各種トレーニング法の理論 とプログラム（筋力・パワー持久力）			
	2	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 2	各種トレーニング法の理論とプログラム（スピー ド・柔軟性・特別な対象）			
	3	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 3	各種トレーニング法の実際（筋力トレーニングの実 際）			
	4	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 4	各種トレーニング法の実際（パワー・持久力・スピー ド・柔軟性向上）			
	5	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 5	トレーニングの効果の測定と評価（測定データの活 用）			
	6	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 6	体力総論／機能解剖／バイオメカニクス／運動生理 学／栄養			
	7	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 7	運動と栄養／運動と心理／運動と医学／運度指導の 科学			
	8	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 1	一般科目 1			
	9	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 1	専門科目 1			
	10	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 2	一般科目 2			
	11	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 2	専門科目 2			
	12	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 3	一般科目 3			
	13	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 3	専門科目 3			

	14	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 4	一般科目 4
	15	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 4	専門科目 4

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	二年次研究課題Ⅱ〔トレ2〕		担当教員	教員 未登録		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。					
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。			
	レポート	60				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	20				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	アスリハの基本的な考え方(1)	段階的なプログラム処方			
	2	アスリハの基本的な考え方(2)	リスク管理／競技特性(体力特性・動作特性)			
	3	アスリハの基本的な考え方(3)	再発予防への配慮			
	4	アスリハの基本的な考え方(4)	安定性、可動性、協調性			
	5	足関節捻挫へのアスリハ(1)	概要説明			
	6	足関節捻挫へのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導			
	7	足関節捻挫へのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案			
	8	大腿後面肉離れへのアスリハ(1)	概要説明			
	9	大腿後面肉離れへのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導			
	10	大腿後面肉離れへのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案			
	11	前十字靱帯損傷へのアスリハ(1)	概要説明			
	12	前十字靱帯損傷へのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導			
	13	前十字靱帯損傷へのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案			
	14	肩関節前方脱臼へのアスリハ(1)	概要説明			

	15	肩関節前方脱臼へのアスリハ (2)	デモンストレーション及び指導、アスリハプログラムの立案
	16	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ①
	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ②
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ①
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ②
	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツの安全・健康管理〔AT2〕		担当教員	伊藤 秀吉		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	スポーツ現場における外傷・障害・事故・疾病等の実態を把握し、安全・健康にスポーツ実践者を支えていく為の考え方を身につける。					
到達目標	スポーツ現場における外傷・障害等の実態について理解し、予防対応策を検討することができる。					
テキスト・参考図書等	公認 AT テキスト②(安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	提出物や授業態度を合わせ、総合的に評価します。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	50				
	その他	50				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション スポーツ現場の外傷・障害・疾病等の実態	オリエンテーション 重篤な外傷・障害・事故・内科的疾患			
	2	各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響	環境的要因、用具、施設等の要因、生活習慣要因、心理的要因			
	3	健康管理について	健康管理システム、AT が担う役割、教育・啓発活動			
	4	健康管理について	アンチ・ドーピング、メンタルヘルス			
	5	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における AT の役割	スポーツ医科学チームにおける AT の役割と留意点			
	6	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における AT の役割	対象者に関する理解			
	7	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における AT の役割	環境や競技・種目特性に関する理解			
	8	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における AT の役割	重大事故発生に備えた対応			
	9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の各種評価と情報活用	データの種類とその活用・管理、内科的メディカルチェック			
	10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の各種評価と情報活用	整形外科的メディカルチェック：頭頸部			

	11	安全・健康管理および スポーツ外傷・障害予 防の各種評価と情報活 用	整形外科的メディカルチェック：体幹
	12	安全・健康管理および スポーツ外傷・障害予 防の各種評価と情報活 用	整形外科的メディカルチェック：上肢
	13	安全・健康管理および スポーツ外傷・障害予 防の各種評価と情報活 用	整形外科的メディカルチェック：下肢
	14	安全・健康管理および スポーツ外傷・障害予 防の各種評価と情報活 用	フィジカルチェック
	15	まとめ	振り返り、試験対策

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

